

WEBカメラを用いて自らの「話す・聞く」をみつめなおす実践

熊本県人吉市立東間小学校 教諭 西口 雄一郎

y-nishiguchi@kumagawa.net

キーワード：小学校、国語科、インタビュー、WEBカメラ、動画撮影、校内共有フォルダ、自己評価、相互評価

1. はじめに

勤務地である熊本県人吉市では、一昨年度から総務省委託事業であるユビキタスアウン構想推進事業や人吉市ICTきずなプロジェクト等の施策により、電子黒板や児童用タブレットパソコンをはじめとする多くのICT機器が導入された。すべての教室からインターネットに接続できるインフラ整備なども行われている。

導入されたICT機器の一つであるタブレットパソコンには、静止画・動画が撮影できるWEBカメラが内蔵されており、児童でも容易に操作・利用が可能である。また、アクセスポイントが各教室に設けられ、校内無線LANにより場所を選ばず使用することができ、ネットワークにも接続することができる。

本実践は、インタビューの様子をWEBカメラで動画撮影し、受け答えの様子や話し方の特徴を記録し、自己評価や相互評価を行うことで、的確に話す能力・相手の意図をつかみながら聞く能力を高めることをねらいとしている。

そこで、WEBカメラで動画撮影することで、繰り返し視聴可能となり、より的確に自らのインタビューの様子を自己評価することができるのではないかと考えた。また、撮影した動画を校内共有フォルダに保存し、他の児童の動画も視聴することで、相互評価に生かすことができ、学びを共有する一つの手段として効果があるのではないかと考えた。

2. 実践事例

2. 1 授業の概要

(1) 学年

第5学年

(2) 教科

国語科

(3) 単元名

「きくこと」について考えよう（光村図書）

(4) 単元目標

- 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。
- 収集した知識や情報を関連付け、目的や意図に応じて構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話すことができる。

(5) 単元計画（全5時間）

- ①学習の見通しをもつ
- ②インタビュー活動の留意点をまとめる
- ③インタビュー活動をする
- ④インタビュー活動を振り返る
- ⑤振り返りをいかしてインタビュー活動をする

(6) 使用機器

タブレットパソコン（WEBカメラ）・電子黒板

2. 2 授業の実際

(1) インタビュー活動

インタビュー活動は3人で1グループとし、「聞き手（インタビューをする児童）」、「話し手（インタビューをされる児童）」、「記録者（インタビューの様子を記録し発表する児童）」の三つの役割を交代で行うようにした。

前時に教科書で提示されている活動例から、インタビューの際に聞き手（インタビューをする児童）が気をつけることをまとめいった。

①話し手（インタビューをされる児童）の答えを受けて次の質問をする。

②返答によって、新たに質問がうかんだら、他の質問との関係、時間などを考えて質問する。

③質問メモだけを見ず、相手を見て相づちを打つなど、反応を返すことで話し手が話しやすいようにする。

以上の三つの点に留意させインタビュー活動を行った。

記録者は、記述の記録とWEBカメラを用いて動画撮影を行った。WEBカメラはタブレットパソコンに内蔵されているので、記録者は机上に設置し、記述による記録メモをとることができる。

カメラアングルは主に聞き手を中心となるようにし、質問の内容、受け答えの様子に加え、相づちや領きの様子、表情までも記録できるようにした。



写真1 インタビュー活動の様子

動画撮影することで、その場での相手の答えや、新たに浮かんだ質問項目を細かに記録することができた。児童が臨機応変に対応した様子は、記述による簡単なメモと該当する質問をしている録画時間をメモすることで、後からの振り返りが容易になった。

(2) インタビュー活動を振り返る（自己評価）

記録者の児童が撮影した動画を用いて、自らのインタビューの様子を振り返る時間を設けた。動画を視聴する際は、第2時間目にまとめた留意点を自己評価の観点とし、視聴毎に観点を絞り振り返りを行った。

自己評価の方法として、観点毎に4段階で評価し振り返る。また、その評価とは別に記述による評価

を行った。以下は児童の記述による自己評価の一部である。

○準備していた質問はすべて尋ねることができたけど、答えてくれたことを詳しく聞く質問ができなかった。

○相手の答えに、しっかり相づちをうつことができていた。

○話すスピードが少し速いと思う。聞き取りにくかったのか、相手が聞き直すところがあった。

○質問メモばかりを見ていたので、相手の顔をしっかり見ながら質問すればよかった。

○話すときの声の大きさや間をとることを考えてインタビューをすることができた。

○相手の答えを受けとめるときに、自分の経験も入れて話すことができた。

記録者のメモと併せ動画でふり返ることで、実際にその様子を見な

がらインタビューのふり返りが行え、繰り返し再生や一時停止、巻き戻し

といった機能で細かにふり返ることができた。相手の

答えに対する相づちや頷き、反応の

様子についての反省点は動画撮影だからこそ気づくことができた視点だといえる。

今回撮影した動画は校内共有フォルダに保存をした。記録を保存しておくことで、学習前と学習後の変容を児童自身がより明確につかむことができると考える。

また、教師が評価をする際にも、記録として残っているので、インタビュー活動時に評価に徹する必要がなく、一斉にインタビュー活動を行うことができる。そして、児童の変容から評価することができ、個に応じた指導が可能になると考える。

(3) インタビュー活動をふり返る（相互評価）

相互評価では、校内共有フォルダに保存した動画の中から、優れた聞き手の動画を教師側が抽出し、電子黒板を用いて学級全体に提示した。

相互評価をする場面では、視聴する際の視点として、工夫点・参考になる点をみつけるように指導を行い、そのよさを学級全体で共有できるようにした。

教科書の活動例でも工夫点が例示してあるが、より身近なお手本ということもあり、意欲的に多くの工夫点や参考

になる点を見つけ出すことができた。



写真2 インタビューの自己評価



写真3 校内共有フォルダに保存

また、電子黒板で、工夫されたポイントを絞り、提示することで確実に工夫点に気づかせることができた。



写真4 電子黒板を用いての相互評価

3. 成果と課題

実践を通して、次の三つが成果として挙げられる。

○インタビュー活動の様子を動画撮影し、自己評価を行うことで、より自分を客観視した細やかな評価が可能となった。そのことが次時への課題や目標を明確にもたらすことにもつながった。

○撮影した動画を校内共有フォルダに保存することで、他の児童の活動の様子を繰り返し視聴することができ、相互評価を行う上で、他者の工夫点を自分のインタビューでの話し方に活かそうとする児童が多く見られるようになった。また、学級全体で工夫されたポイントを絞り、提示することで、より確実に工夫点に気づき、自分自身の活動に活かすことができた。

○動画記録として残し、学習後の動画記録と比較することで、改善点や上達した点等、児童の学習後の変容を把握することができた。児童はより達成感を明確にもつことができ、話すこと・聞くことに対する関心・意欲も向上するのではないかと考える。また、教師は児童の変容をもとに評価することができた。

本実践では、聞き手（インタビューをする児童）の動画撮影による評価を中心に取り上げたが、話し手（インタビューをされる児童）、記録者（インタビューの様子を記録し発表する児童）においても同様に、的確な自己評価、相互評価が可能であると考える。また、一单元学習での活用のみではなく、スピーチや話し合い活動等、日常的な「話す・聞く」についての場面においても効果が期待できるのではないかと考える。長期的、継続的な視点を持って実践を考えていきたい。

4. おわりに

児童自らが「話す・聞く」をみつめなおす一つの手段としてWEBカメラを用いたが、デジタルビデオカメラを用いても動画によるふり返りは可能である。むしろ、動画としての画質や音質について考えると、後者の方が有効といえる。しかし、モニターとの接続や、撮影後の動画の共有方法等、日常的に学習場面で活用することを考えると困難や手間を感じる。

今後はICT機器を用いることで、従来の指導方法よりも、少しでも困難さや手間を解消することができるのでないかという視点と共に、媒体や機器の特性をより理解し、いかに指導の効果を高められるかを考え、実践に取り組んでいきたい。